

令和5年度事業評価結果報告書

東京都写真美術館外部評価委員会

令和7年2月

目 次

1 座長あいさつ	1 頁
2 総 評	2 頁
3 評点一覧	4 頁
4 評価結果一覧	6 頁

《資料》

東京都写真美術館外部評価委員会設置要綱	22 頁
東京都写真美術館外部評価委員会委員名簿	23 頁

座長あいさつ

このたび、東京都写真美術館外部評価委員会は、令和5年度の東京都写真美術館の運営に対する評価結果を、伊東信一郎館長に提出しました。

本委員会の設置目的は、東京都写真美術館の事業実績を客観的に評価し、事業効果を適正に測ると共に、改善事項の検討を進めることです。

令和5年度の評価をするにあたって、本委員会を2回開催しました。令和6年4月に開催した第一回委員会では、主に令和5年度の事業実績や令和4年度の評価の際に出された意見等についての改善事項などを確認しました。令和6年5月の第二回委員会では、東京都写真美術館のミッションである「存在感のある美術館運営」に向けた具体的な事業運営項目と必要な基盤整備について、実績を年報等により5段階で評価しました。本報告書はそれを取りまとめたものです。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類に移行され、国内外の人の動きが活発化したなかで、国際的情勢及び子供から高齢者まで、障害のある人、外国ルーツの人など多様な人々の来館も意識した事業運営が求められました。

本委員会の課題の指摘、提言等が東京都写真美術館の事業運営の改善、発展の一助となることを望みます。そして、東京都写真美術館が我が国唯一の写真・映像の総合美術館として、センター的役割を担う「存在感のある美術館」となるとともに、世界に向けて優れた写真・映像文化を発信する美術館となることを期待しています。

東京都写真美術館外部評価委員会

座長 杉田 敦

【総評】

令和5年度の美術館運営は、「1 作品収集・保存事業」、「2 事業展開」、「3 教育・普及事業」、「4 広報事業・情報発信」、「5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携」及び「6 インフラ改善」の各評価項目について総じて高い評価となった。

「1 作品収集・保存事業」は、令和5年度の収集方針に沿った、東京都予算による購入に加え、自主財源による希少性が高く今後の評価も高まるであろう作品の収集、保存科学研究室による調査研究・普及活動など、適切かつ堅調に実施されている。収蔵作品・資料の情報システム化は工夫すべき点はあるものの、地道に進められている。調査研究は限られた時間の中での努力が伺えた。

「2 事業展開」では、独自の切り口が光る収蔵展や重点収集作家の個展等が堅実に開催された。20回目となる「日本の新進作家」展では、この展覧会が契機となった作家の芸術賞受賞が今回もあり、将来性ある作家の発掘の役割を果たした。恵比寿映像祭では、パフォーマンスやトークなど参加型イベントが連日開催され、観客も多く可能性を感じさせられた。上映事業は観客数は苦戦したが、夏休みの子供向け上映や展覧会に関連した上映を工夫するなど美術館で上映する意義のあるラインナップであった。

「3 教育・普及事業」では、展覧会に伴う講演会、制作と鑑賞が一体となったスクールプログラム、多様な人が参加できる多彩なパブリックプログラム等が実施された。

また、継続的に実施してきている手話通訳付きの「担当学芸員によるギャラリートーク」のすべての収蔵展、自主企画展での実施や恵比寿映像祭でのやさしい日本語による見どころガイドの配布、ボランティアによるサポートなど、だれもが芸術文化を楽しめるような取組みが行われた。

「4 広報事業・情報発信」では、記者懇談会を再開するなど報道機関との的確な連携のほか、チラシ配布などによるターゲットを絞った戦略的な広報活動が行われており、従来型メディアと親和性の高い層の取り込みに成功している。それに加え、SNS等、多様なチャンネルがターゲットに応じて効果的に使い分けされている。

「5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携」では、展覧会に合わせたミュージアムショップの独自の品ぞろえ、カフェのコラボメニューの提供が館の魅力向上に寄与している。

写真美術館独自の支援会員制度では 経済環境の厳しい中、会員数の減少を食い止める最大限の努力を行い、会員数、会費収入は微減にとどまった。

ボランティアの活動はコロナ禍前の水準に戻り、恵比寿映像祭で鑑賞サポートを行うなど新たに活動の場を広げている。

地域連携では、地域のイベントにオープンワークショップ、シールラリーなどで参加し、地域活性化に寄与するとともに美術館の存在をアピールした。

「6 インフラ改善」では、障害のある方向けおすすめルートをホームページに掲載するなどソフト面を中心にアクセシビリティ向上の努力が継続されている。展覧会ごとに展示室内のレイアウトが変化することを考慮した展覧会ごとの避難訓練が実施され、年間を通じて危機管理の向上に努めている。

最後に、年間観覧者数についてはコロナの影響を勘案した目標の22万8千人に対して、実績33万5721人、149%の達成率であった。令和6年度からは目標が38万人となることから、コロナ禍を経た人々の行動の変化も考慮しつつ、いっそうの集客に取り組むことを望む。

令和5年度事業 評点表

評価項目		評点
1 作品収集・保存事業の評価 ＜過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館＞		5
(1)	作品資料収集等事業	5
(2)	収蔵品の購入	5
(3)	情報システム等	4
(4)	情報システム等(TOMUCO)	4
(5)	保存科学研究室の運営	5
(6)	調査・研究	4
2 事業展開の評価 ＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞ ＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞		5
(1)	展覧会事業(収蔵展)	4
(2)	展覧会事業(自主企画展)	5
(3)	貸出施設の運営(誘致展)	4
(4)	国際交流事業	5
(5)	上映事業	5
(6)	貸出施設の運営	5
3 教育・普及事業の評価 ＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞		5
(1)	教育普及(スクールプログラム)事業	5
(2)	教育普及(パブリックプログラム)事業	5
(3)	クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー	5
(4)	新たな日常対応事業	5
(5)	図書室等の運営	5
(6)	人材の育成	5

評価項目		評点
4 広報事業・情報発信の評価 ＜写真・映像文化の拠点として貢献する美術館＞		5
(1)	広報事業	5

5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価 ＜開かれた美術館＞		5
(1)	業務の品質管理と評価	5
(2)	館内ホスピタリティ及び苦情対応	5
(3)	来館者へのサービス	5
(4)	ミュージアムショップ事業等	5
(5)	カフェ運営事業	5
(6)	支援会員	4
(7)	ボランティア	5
(8)	関係団体との協力	4
(9)	広域事業連携	4

6 インフラ改善の評価 ＜必要な基盤整備＞		5
(1)	施設・設備管理	5
(2)	安全対策・危機管理	5

※評点区分：【高】5 【やや高】4 【中】3 【やや低】2 【低】1

令和5年度事業評価結果一覧

1 作品収集・保存事業の評価 【評点5】

〈過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館〉

(1) 作品資料収集等事業 【評点5】

《評価の理由》

- 適切な作品管理が行われている。
- 研究等のため収蔵作品が閲覧できる特別閲覧は、よい取り組みである。

(2) 収蔵品の購入 【評点5】

《評価の理由》

- 収集方針に基づき、限られた予算を有効に活用して、多様な作品収集を実現している。
- 当館への信頼が反映され、貴重な作品の寄贈もあった。

(3) 情報システム等 【評点4】

《評価の理由》

- 画像付き情報が引き続き7000件以上追加された。データベースの充実に向けて地道な努力がされている。
- 資料データの検索はかなりスムーズである。
- おおむね方針に沿った取り組みがなされているが、HPの「各年度の収集作品」など、更新が滞っているページも見受けられる。

《指摘された課題・提言等》

- マンパワーが必要になってくるが、作品資料の魅力を発信するという観点からは、HPでのデザインを改善すること等によって訴求力を高めたり、所蔵品を様々な切り口で紹介するコーナーを設けるなど、なお工夫の余地がある。

(4) 情報システム等(ToMuCo)

【評点4】

《評価の理由》

- タイムパフォーマンスを重要視する世代にとって、利便性の向上を伴うシステム導入は歓迎すべきこと。
- 2025年度という時限を設けて全件サムネイル画像として情報提供を行うことや、高精細画像の公開を検討するなど、具体的な目標を掲げている点は評価できる。
- データベースの充実に向けて地道な努力がされているが、画像がないものも多い。

《指摘された課題・提言等》

- 目標達成に向けた取り組みを一層、各プロセスにおいて可視化していくと、美術館の魅力発信という点でよいし、利用者としても様々な使い方ができるようになると思われる。
- 検索項目が多岐にわたっていて専門的には非常に良いが、ちょっとずれると検索できなかつたりすることがある。あいまい検索もひっかかるように今後もアップデートに努めてもらいたい。

(5) 保存科学研究室の運営

【評点5】

《評価の理由》

- 実際の環境調査、保存体制の維持から保存科学研究と人材育成、またその情報発信など、適切に行われている。
- 学会発表、専門機関からの視察対応、勉強会等を通じて、写真保存の教育、普及活動を通して、技術や研究成果の社会還元を図っている。
- 最新の手法を用いて、適切に修復、保管管理をしている。

《指摘された課題・提言等》

- 保存科学担当者は専門性が高い職種ゆえ、館内でその活動を他の館員が適切にモニタリングし評価することが難しい面があることを十分に踏まえて、他セクションとの対話に努め、今後とも適切な運営を継続してほしい。
- 保存・修復も美術館の大事な役割である。今後とも様々な形で情報発信と研究を推進してほしい。
- 活動自体をより広く知ってもらうために、広報についても検討すべき。

(6) 調査・研究

【評点4】

《評価の理由》

- 限られた時間の中で各学芸員が懸命に調査研究に努めようとしている姿勢がうかがえる。
- 個人においても多岐にわたる活躍がみられ、寄稿、講演、教育、審査などの普及活動にも実績がある。

《指摘された課題・提言等》

- 主に担当する展覧会図録への寄稿がその成果発表の場であることはやむを得ないが、そのような機会には、論文、エッセーの分量を倍増していくことが望ましい。
- 調査・研究のための時間を確保し、個人発表の場を増やせる体制を整えていただきたい。
- 在外研究や研究休暇等、研究環境の改善が急務である。
- 地道な研究活動は評価できるが、カタログや紀要以外の寄稿などの展開はいささか寂しい。より一層の努力を求めたい。

2 事業展開の評価

【評点5】

＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞

＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞

(1) 展覧会事業（収蔵展）

【評点4】

《評価の理由》

- 独自の切り口が光る収蔵展だった。『即興 ホンマタカシ』に関しては、重点収集作家かつ厚いファン層を持つ人気作家であり、コロナ5類移行後半年ほど経ってからの開催だったので、観覧者数の上積みを目指したが、少々残念な数字だった。
- 集客に関しては申し分ない成果を挙げていると評価できる。しかし「いつ来ても新しい」というコンセプトで毎回新規性が求められるためか、「調査研究に基づいた」プランの熟成度に関する部分がやや手薄に感じられる。
キャッチーなタイトルやテーマよりも、コレクションとの充実した対話を促す中に、館としての優れた知見が浸透しているようなコレクション展も期待される。
- テーマに沿った作品選択だけでなく、会場構成、キャプションと展示作品とのバランスが良い。
- 図録のバリエーションが良かった。特に「セレンディピティ」「ホンマタカシ」展のサイズ感が新鮮だった。

《指摘された課題・提言等》

- 図録は、内容が良くてもサイズと重さに購入を躊躇う来館者もいる。収蔵展では来館者がより手に取りやすい図録作成を検討していただきたい

(2) 展覧会事業（自主企画展）

【評点 5】

《評価の理由》

- 集客に関しては申し分ない成果を挙げている。
- 将来性ある作家を発掘する「日本の新進作家」シリーズで、今回も写真美術館の展示が契機となった芸術賞の受賞があった。新進作家の発掘、発表の機会を提供し続けていただきたい
- 館企画の2つの展覧会が他美術館に巡回し、館コレクションの紹介とともに収益も生んだ。
- 作家に焦点を当てた自主企画は性格がわかりやすい
- 恵比寿映像祭は、パフォーマンスなど新たな試みも見られ、観客も多く、可能性を感じさせられた。

《指摘された課題・提言等》

- 人気企画「日本の新進作家」は20回目を迎え、ますます期待が高まっている。過去20回の新進作家展参加作家のアーカイブをウェブ等何らかの形で制作してほしい。
- 一般の来館者にとって、写真作品に比べ映像作品の評価（観るポイントなど）がわかりにくいと思う。「映像作品」の積極的な紹介の場であって欲しい。

(3) 貸出施設の運営（誘致展）

【評点4】

《評価の理由》

- 外部との共催により、バリエーション豊富な展示が行われた。
- 大学の芸術学部の企画は大変興味深い。目標に対する実績も大きく上回る結果も素晴らしい。
- 土門拳と木村伊兵衛の展覧会については、それぞれの写真史的な重要性に鑑み、企画会社が制作した展覧会をそのまま受け入れることなどについては、より熟考を要する。外見上は包括的な回顧展として設えてあった木村展については、没後50年という周年事業であることがうたわれており、美術館で行われる「巨匠」の個展として、学芸員・研究者らによる最新の研究成果が反映されるべきだった。

《指摘された課題・提言等》

- 誘致展と館の展覧会事業(自主企画・収蔵展)とは、性格の違いがはっきりと分かるように、当初から企画・立案されるべきである。近年、写真史上「巨匠」と目される写真家の企画展が、「誘致展」として開催される傾向があるが、館の企画との「棲み分け」について再考すべき。
- 来場者にとっては、収蔵展、企画展、誘致展の違いはわからないので、誘致展を館としてどのように位置づけるか等、継続して考えてほしい。

(4) 国際交流事業

【評点5】

《評価の理由》

- 海外機関との連携など、日頃から培っている海外ネットワークが活用された。「恵比寿映像祭」では参加型イベントや実験的な企画をはじめ、多彩なプログラムが展開された。
- 実質的な交流が行われているという印象をうける。

《指摘された課題・提言等》

- 歴史的な円安下の美術館の国際交流事業は、経費的なハンデがあり、困難かと思うが、方針に謳われている、とりわけ「日本のアーティストの海外への発信等に貢献する」という大事な項目は、今後いっそう追求すべき課題である。またこの項目全体の充実も求められる。
- 恵比寿映像祭の結果を精査し、美術館事業全般への活用が望まれる。

(5) 上映事業

【評点5】

《評価の理由》

- 例年以上に硬派なラインナップで、方針にもかなうものであり、かつ公的な美術館で上映される意義のある映画が多く選択されている。
- 商業ベースに乗りにくい芸術性が高い映像作品を、鑑賞するための貴重な場としての役割が果たされている一方で、観客数が非常に少ない上映もある。写真展との連動企画が開催されたが、さらなる工夫で鑑賞者数の増加を図りたい。
- TOP MUSEUMらしいセレクトは、方針に沿った運営であると考え

《指摘された課題・提言等》

- 内容的には充実したものになっているが、「アート&ヒューマン」というくくりでは、テーマはあってないようなもので、全体として散漫な印象を受けてしまう。

(6) 貸出施設の運営

【評点5】

《評価の理由》

- 適切な管理、運営がされている。ホールの映像機器、映写機機、その付帯設備について継続的な保守管理をお願いしたい。

3 教育・普及事業の評価

【評点5】

<写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館>

(1) 教育普及（スクールプログラム）事業

【評点5】

《評価の理由》

- 多彩なプログラムを実施しており、各年代の教育機関を対象に、適切な教育普及事業を展開することができている。
- 積極的な教員研修の受け入れによって、写真・映像文化の裾野を広げている。また、生徒たちが楽しみながら、将来にわたり財産となる「アート思考」を身につけるきっかけ作りに寄与している。
- TOPティーチャーズWEEKは、先生に授業を考えてもらうきっかけとなる面白い取り組みである。

《指摘された課題・提言等》

- 写真美術館の特性を活かしたプログラムを継続してほしい。制作と鑑賞が一体となっていることで、制作の過程での気づき、発見を経て作品鑑賞に繋がっている。両方が体験できるこのプログラムは、大学・専門学校にとっても有意義だと思うので校種の拡大はメリットがあると思う。
- 作品鑑賞に関しては、芸術表現一般についての「鑑賞」に加え、写真・映像ならではの「鑑賞」の観点から、写真美術館ならではの取り組みを開発してもらいたい。

(2) 教育普及（パブリックプログラム）事業

【評点5】

《評価の理由》

- 多彩なプログラムを実施しており、幅広い年代の市民を対象に、適切な教育普及事業を展開することができている。
- コロナ禍で行った多くの試みにより培われたノウハウが生かされ、様々な属性の人々が学ぶ機会を創出し、写真文化を担う次世代が育成されている。誰もが安心してアートと出会う場所作りが推進されており、ますますの発展を期待したい。

《指摘された課題・提言等》

- インクルーシブ、全世代対象のプログラムのバリエーションが増えることで、美術館への入り口が広がると思う。社会包摂のプログラムが広がることでボランティアの活動範囲も広がってくる。スタジオでのプログラム参加中のサポートなのか、鑑賞中のサポートなのかによっても必要な知識技術が違ってくる。職員の負担も考慮しつつ、ボランティアへ更なる研修機会を提供してほしい。
- ティーチングではなく、あくまでもラーニングという立場から、プログラムをさらに充実させていきたい。

(3) クリエイティブ・ウェルビーイング・トークショー

【評点5】

《評価の理由》

- 意義ある社会的包摂のための事業・取り組みを様々な形で実施しており、評価できる。
- 社会課題に積極的に向き合ったプログラムが実施され、解決に近づくための活動が美術館の視点で遂行された。
- 言語の違い、聴覚障害、視覚障害のある方も知ることができ、楽しめる、そのための取り組みが素晴らしい。開かれた美術館として、ぜひ継続してほしい。
- 細やかな対応をしている。更なる充実を期待したい。

《指摘された課題・提言等》

- 地域、近隣自治体、社会福祉団体、NPO との協働が重要で、連携が大事である。来館を待つのではなくこちらから出向くこともできるようになり、来館につながるされるとよい。問題点を整理して積極的に活動してほしい。

(4) 新たな日常対応事業

【評点5】

《評価の理由》

- 動画配信などを適切に活用した擬似的体験の場を創出していると評価できる。
- 所蔵している映像装置の形態、機能の紹介動画、作品の配信など、オンラインコンテンツの活用がされている。
- 遠距離でも展覧会を楽しめる動画配信は意欲的な取り組みと考える。
- 動画配信からアプリまで、多彩な展開で、高く評価できる。

《指摘された課題・提言等》

- 「来館せずとも活用できるコンテンツ」の充実を進め、将来の来館につながるよう展開してほしい。

(5) 図書室等の運営

【評点5】

《評価の理由》

- 東京都写真美術館図書室が、写真研究の拠点としてほかに置き換えることのできない施設であり、その重要性は写真史的な稀覯本が増えつつある現在、増してきている。一層の所蔵本・雑誌・エフェメラの充実を図り、利便性の向上に努めてほしい。
- 展示と連動した閲覧サービスが充実している。専門図書館として貴重な役割を果たしている。
- 展覧会関連の図書を所蔵し、リスト化してHPに掲載してあるのは利用者にとって大変便利と考える

《指摘された課題・提言等》

- 写真資料の充実度は他館にも誇れるものである。貴重な資料の保存にも万全を期し、資料の更なる充実とサービス面を含めた「美術センター」的な役割を担ってほしい。

(6) 人材の育成

【評点5】

《評価の理由》

- 博物館学の学芸員課程の実習、インターンの受け入れなどの専門人材育成は、公的美術館にとって欠かせない業務であり、継続的に適切に実施されている。

《指摘された課題・提言等》

- 改善されてきているが、インターン、ボランティアに任せる事項のさらなる拡充に努めてもらいたい。

4 広報事業・情報発信の評価

【評点5】

<写真・映像文化の拠点として貢献する美術館>

(1) 広報事業

【評点5】

<<評価の理由>>

- 集客の観点からいえば、広報事業は奏功しているとみられる。
- 報道機関との的確な連携のほか、チラシ配布などによるターゲットを絞った戦略的な広報活動が行われており、従来型メディアと親和性の高い層の取り込みに成功している。ファンが多い「nya-eyes」の発行も継続されている。
- SNS 各種、YouTube 配信、ニコニコ美術館配信などの多様なチャンネルを、ターゲットに応じて使い分けられている。
- 細やかに、各種メディアで広報を行っていると思われる。

<<指摘された課題・提言等>>

- 媒体が多いため評価が難しいが、SNS の配信ならびに反応と、実際の観覧者数とその属性との相関関係について検証し、効果が高いところを残し、その外は手間をかけずに効果的にアプローチする等分別するとよい。
- 自分たちの労力を使わないで情報を発信する仕組みも考えるとよい。
- 作品解説、作家インタビューなどの YouTube 配信が減少している。手間がかかるが、将来にわたって活用される信頼性の高い貴重な情報源なので、直近の視聴回数に関わらず、未来の潜在視聴者（AI 翻訳等の技術革新で、より一層海外の視聴者も期待できる）に対しても配信の継続をしてほしい。

5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価

<開かれた美術館>

【評点5】

(1) 業務の品質管理と評価

【評点5】

<<評価の理由>>

- 顧客調査などを通じた業務の品質管理と評価については、概ね適切に実施されており、効率的に事業運営がなされていると考えられる。
- 観覧者数に関して、コロナ係数を勘案した目標値は大きく上回ったが、基準値の38万人には及ばなかった。5類移行後の伸びがやや鈍い理由を検証し、38万人を達成してほしい。

<<指摘された課題・提言等>>

- 今後は、集客などの数値には表れにくい、展覧会や調査研究に係わる品質管理を複数の指標から判断できるような手法を考案していく必要がある。

- 新たな観覧者の獲得は目標達成のポイントの1つと思われる。YEBISU BREWERY TOKYO の顧客は、今までの YGP 来街者とは異なり、新規入居のオフィスワーカーと共に身近な候補者になるとと思われる。
- 首都圏の美術館で写真・映像に関連する企画を開催する場合、図書室や上映事業など部分的でもよいので連動できる関係性を築けるとよい。

(2) 館内ホスピタリティ及び苦情対応

【評点5】

《評価の理由》

- 適切に事業運営がなされている。
- 手話ができる受付者の配置、多言語化などにより、アクセシビリティが向上している。
- 丁寧で好感の持てる対応をされている
- 外国語のできる、あるいは外国ルーツの看視の配置は緊急時、あるいはトラブル防止に有効である。

(3) 来館者へのサービス

【評点5】

《評価の理由》

- 適切に事業運営がなされている。
- 上質の作品を鑑賞するにふさわしい環境、サービスが提供されている。

《指摘された課題・提言等》

- 指摘にしても称賛にしても、お客様の声から学ぶことが多いので、引き続きアンケート、届いた声を共有しより良い運営に生かしていただきたい。

(4) ミュージアムショップ事業等

【評点5】

《評価の理由》

- 適切に事業運営がなされている。
- 展覧会関連書籍やグッズ、非流通本など独自の品揃えがされている。
- 展示に合わせた企画など、選ぶ楽しみのある店舗となっている

《指摘された課題・提言等》

- ショップ前のスペースで、購入前の書籍を読むことができるなどの対応が望まれる。

- 観覧者増加に向け、TOP MUSEUM の認知拡大を図るには、オリジナルグッズによる接点拡大も有効かと考える。

(5) カフェ運営事業

【評点5】

《評価の理由》

- 適切に事業運営がなされている。
- 1人でも入りやすく、また少人数の打合せ等にも活用しやすい。展覧会に合わせたコラボメニューや作家と協働したお菓子の製作販売など、ユニークな企画が実施された。
- フード、デザートともに品ぞろえ、作品とのコラボなど企画、見た目も好印象である。美術館をより身近に感じ、入館（観覧者増）につなげる入口としての役割も期待したい。

(6) 支援会員

【評点4】

《評価の理由》

- 努力されていることと思うが、コロナの時期に減少をみ、支援会員数と会費収入が過去4年間で続落しており、会員の拡充と会費確保に努力してほしい
- コロナ禍により企業が協賛を控える風潮の中、会員数維持に努めた。状況を考えれば健闘している。

《指摘された課題・提言等》

- 支援会員の企業団体の皆様に「支援して良かった」と思っただけの魅力ある活動を検討してほしい。
- リアルな交流の機会を増やし、美術館への理解と関わりを増やす工夫をしていただきたい。

(7) ボランティア

【評点5】

《評価の理由》

- コロナ明けからのボランティア活動が、例年通りのかたちに戻ってきている。
- コロナの影響が少なくなり、対面での活動が開始された。恵比寿映像祭での活躍は目覚ましく、研修会、連絡会も積極的に開催されている。
- スクールプログラムやワークショップの活動が充実されており、学びの機会を提供している。
- ボランティアの活動範囲の拡充など、高く評価できる。より企画に近い部分や、施設利用のアイデア出しなど、拡充のための努力も続けてもらいたい。

《指摘された課題・提言等》

- ボランティアの活動の場が広がると、育成や技量の維持のための研修も必須になってくる。職員の負担が増大するのは危惧するが、可能な限り無理なく育成と活動が両立できる方向性を作ってほしい。

(8) 関係団体との協力

【評点4】

《評価の理由》

- 恵比寿映像祭だけではなく、渋谷おとなりサンデー@恵比寿ガーデンプレイス、恵比寿文化祭、近隣の保育園、幼稚園、小学校の子供たちが集うハロウィーンイベントなどに参加し、地元コミュニティに貢献するとともに地域の方々に美術館を身近に感じてもらう取り組みがなされた。

《指摘された課題・提言等》

- 恵比寿映像祭の時を中心にある程度地域連携に努めていることが理解できるが、どうしても、孤立している印象がある。さらに関係団体・地域の様々な事業体との連携に尽力することが期待される。
- YGP 開業 30 周年の住民、テナント、ワーカーの共創企画を活用し、芸術・文化に触れる機会を増やしていただきたい。

(9) 広域事業連携

【評点4】

《評価の理由》

- コロナ禍による休止からの再開と方向性を模索中と思われるが、渋谷の再開発も進んでいるので多ジャンルの文化施設との協働を推進してほしい。

《指摘された課題・提言等》

- 目黒からの新しいルートを開発する場合、地域の諸施設における告知や、誘導設備の配置など、地域とのより以上の連携が求められる。

6. インフラの改善

【評点5】

〈ミッション達成のための必要な基盤の整備〉

(1) 施設・設備管理

【評点5】

《評価の理由》

- 適切に施設・設備の管理がなされていると評価できる。
- 時期に応じた新型コロナ感染防止対策が適切に行われた
- 屋上に5G アンテナが設置し、通信環境の整備がされた
- 多言語化、バリアフリー化の努力が継続されている
- 安全・安心の観点に準じた取り組みがされている

《指摘された課題・提言等》

- 館の立地上どうしても入館するまでに多少なりとも高低差（坂道、階段）がある。誰にとってもスムーズに入館できる動線を確保してほしい。
- 南口の位置付けが曖昧な印象があり、写真美術館だけでなく、より総合的に検討する機会が必要と思われる。

(2) 安全対策・危機管理

【評点5】

《評価の理由》

- 適切な安全対策・危機管理の施策がなされている。
- 各展示室の稼働壁の変更を考慮し、展覧会ごとの避難訓練が障害者対応等のテーマを設け、年間4回実施され、危機管理能力の向上に努めた。
- 恵比寿ガーデンプレイスとも連携し、災害発生時の備えを実施している。丁寧な対応をしている

《指摘された課題・提言等》

- 美術館は予期せぬ天災・人災が生じる可能性のあるなか、多くの鑑賞者を集めて事業を展開する場であることから、日頃よりの対策・管理にっそう取り組んでほしい。
- 避難訓練にボランティアが参加できる機会を作ってほしい。

資 料

東京都写真美術館外部評価委員会設置要綱

(設 置)

第1 東京都写真美術館（以下「美術館」という。）の事業実績を客観的に評価し、事業効果を適正に測るとともに、改善事項の検討を進めるため、館長の私的諮問機関として東京都写真美術館外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2 評価委員会は、次の事項について審議し館長に助言を行う。

- (1) 美術館が掲げる定性目標、定量目標に基づく美術館事業の外部評価報告書に関すること。
- (2) その他、館長が必要と認めた事項に関すること。

(構 成)

第3 評価委員会は、学識経験等を有する者の中から、館長が依頼する委員6人以内で構成する。

(任 期)

第4 委員の任期は、3年とし、再任を妨げない。

(座長及び副座長)

第5 評価委員会に、座長及び副座長を置く。

- 2 座長及び副座長は、委員の互選により定める。
- 3 座長は、委員会を主宰し、会務を総理する。
- 4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときには、その職務を代理する。

(招 集)

第6 評価委員会は、館長が招集する。

- 2 館長は、必要に応じて、委員以外の関係者の出席を求めることができる。

(会議及び議事)

第7 委員会の開催及び議事は次のとおりとする。

- (1) 委員会は、原則として、委員の過半数が出席しなければ、会議を開催することができない。
- (2) 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- (3) 館長は、大規模災害等により委員の出席が困難である場合は、書面により過半数の委員から意見を徴することにより、委員会の開催に代えることができる。

(謝金の支出)

第8 公益財団法人東京都歴史文化財団委員会等謝礼基準に基づき、委員に謝金を支出する。

(庶 務)

第9 評価委員会の庶務は、東京都写真美術館管理課において処理する。

(補 則)

第10 この要綱に定めるもののほか、評価委員会に必要な事項は、館長が定める。

附則 この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

附則 この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

東京都写真美術館外部評価委員会委員名簿

(令和6年4月～)

(敬称略:順不同)

	氏名	職業・役職	備考
座長	杉田 敦	美術批評	美術館・博物館 経営研究者
	倉石 信乃	明治大学大学院理工学研究科教授	美術館・博物館 経営研究者
副座長	片岡 英子	ニューズウィーク日本版フォトエディター	マスコミ関係者
	富岡 良之	サッポロ不動産開発株式会社 取締役執行役員 恵比寿事業本部長	地域連携
	田口 友子	東京都写真美術館 ボランティア	ボランティア